京城新聞

漫言

黄海道　半狂生

余幼時漢史を讀む漢の孝宣の世、丞相丙吉なる者嘗て出づ途上、人あり賊の爲に殺さる丙吉之れを視て見ざるが如くして過ぐ行々牛の喘ぐに遭ふて之に問ふて曰く此牛何處より來るやと、從者怪んで丙吉に問ふて曰く前きに丞相、人の殺されしを見、問はず今牛の喘ぐを見て問ふ是れ何の謂ぞや丙吉曰く前きの者を檢すは廷尉の任なり我は丞相なり宰相は天子を補け陽陰を和するにあり時方さに初夏なり牛の喘ぐの時にあらず牛の喘ぐものは陰陽の調はざる爲なり故に我之を問ふなりと、時人丙吉を以て大躰に通ずとなす、今や韓國爲政者に向つて丙吉と爲らんことを望む久し、伊藤統監韓國千里門外萬里の間ありと云ふと雖も韓國の人情風俗習慣等を知るに至つては豈悉く足下等に及ばんや然るに足下等統監に對して未だ侃々諤々の言ありしを聞かず只だ唯々諾々隨從するのみと、足下等の隨從は只だ足下等の爲めのみにして韓國二千萬人民を塗炭に苦ましむるものなり赤子の如き良民を驅つて、暴徒と化せしむるものなり日韓兩國人民をして徒らに反目せしむるものなり統監政治を誤まらしむるものなり足下等は韓國に不忠なるのみならず延いて大日本帝國に不實なるものなり足下等は誠に小人なるのみ語に曰く小人之を得んと欲すや得んことに熱中し既に之を得れば失はざらんことを恐る失はざらんことを恐るれば至らざる處なしと是れ與に足下等の謂なり足下等夜半夢醒むるの時拱手一番足下等の既往に思を廻せよ若し良心の呵責に耐へざるものあらば速やかに去つて輿望あるものをして内閣に立たしめよ敢て苦言を呈す

●各地方の暴徒情況

其筋に宛て各地より報告ありたる暴徒の情況を掲ぐれば左の如し

△清州管區　寧海附近は近來に至り賊徒の出沒稍々減少し一般平穩の狀態にあるも寧海を距る西南方約五里大洞方面には時々三四十名の賊徒徘徊す亦盈德の南方五里道川赤岩附近にも少數の賊徒出沒す又倭項附近に沒出する賊徒は現今巧に良民の風を裝ひ各所に散在業務に從事しつゝあるも彼等は窃に氣脈を通じ其時期を待ちて集團再擧を計るやも知れず

△大邱管區　八月十九日眞寶郡沙器洞に於て約二十名の賊と衝突せしことあり又新寧郡代良面及英陽郡日月山附近の少數の賊出沒するものにして其他は概して平穩なり

△釜山管區　概して平穩なり然れども密陽郡丹陽地方に屢々三四名より成る賊出沒して良民を苦しめつゝあり又八月二十一日熊川郡貴峴洞附近に八名より成る賊現はれたりと

△尙州管區　八月十六日尙州郡松板洞に於て約十名の賊と衝突せしことあり

△晋州管區　小淸郡今石面旺德院山附近の山中にて賊徒等は銃器彈藥を製造しつゝある情報あり本月二十一日守備隊にて鹵獲せる銃器を見るに何れも火繩銃を單發銃に改造せしものにして長きは三十年歩兵銃位短きは三十年式騎兵銃位のものなりと又丹城山淸郡界には賊魁[illegible]尙李成晉の徒出沒し又近來全羅南道方面より賊魁宇守甫なる者部下約二十二を率ひて慶南に入り[illegible]尙等の一行と共に行動し居るものゝ如し

△諸管内に於ける稻作は近年平穩なる發育にして人民又豐作を豫期し居るところの豐年祝等の事あり人氣一般に佳良なり

△平壤管內　大体に於て變態なく鐵路以西は各郡共平穩なり只黄海道海州郡所羅面附近に少數の賊出沒する等鐵路以東は平安北道楚山郡江界郡内に於て時々少數の賊出沒し黃海道谷山郡の一部に二十名內外の賊出沒す此兩道は目下の處稍々均等平穩の情勢なるも近來平安南道成川陽德孟山寧遠の各郡に亘り賊徒の出沒及被害等多く他の兩道に比し不穩の狀態にあり

△厚昌管內　四月末賊徒嘯集掠奪の爲め一時避難せし人民も其後平穩に伴ひ續々歸來し安堵の狀あり出沒なし

△江界管內　平穩なり只熙川郡に接する南方江界郡京化面附近に十名內外の賊徘徊したることあるのみ又本月初め渭原郡柏面附近に出沒せし約十四名の賊情に付ては近來聞くところなし

△[illegible]管內　近來[illegible]山郡[illegible]源面に十一名の[illegible]

△新義州管內　昌城郡內より少數の賊徘徊せしが該賊は寶山管內に現はれたるものと同一ならん其他義州里島洞にて清人強盜六名韓人を要し金百九十三圓を掠奪したることあり

△安州管內　德川、孟山、寧遠の各郡に亘り八九名乃至約五十名の賊徒出沒するも安州以西は平穩なり

△右管內　成川、陽德郡は暴徒の出沒最も多し而して兩郡に出沒する賊は七八名乃至約四十名より成るものにして成川郡百年山の如き嶮山連續せるを利用して出沒するものゝ如し目下賊魁徐光導なる者二十餘名の部下と共に潜伏し居る情報あり依て搜索中其他は平壤郡東部四五里の地に六七名の賊出沒する外一般平穩なり

△遂安管內　一時賊徒の巢窟たりし秀山彦眞山あり此附近より谷山、新溪の各郡に多少の賊徒潜伏せるが如きも谷山郡西村面及花村面に約二十五名の賊徒二回現はれたる外出沒及被害等を聞かず

△載寧管內　殆んど平穩となれり海州郡所羅面附近を少數の賊徘徊し二回にて金六十九圓を掠奪したることあり又安岳郡新谷院に四名の賊來り五圓を掠奪したることあるのみ其他は平穩なり

△咸興管內　五六月頃の暴徒の失れに比し殆んど屛息し全く強盜的少數の賊が稀に出沒するのみ只北部豆滿江沿岸一帶の地は動もすれば淸露領內に潜み居る李範允の部下の渡江侵入するなきを保し難く目下警戒中なり

△會寧管內　豆滿江對岸に潜み居る賊魁李範允の率ゆる賊徒は動もすれば江を渡り韓國內地に侵入せんとするを警戒しつゝありたるも本月四日約百名の暴徒窃に新河山と竜洞の間を渡り侵入し慶源新乾源附近に時々出沒せしことあり

△鏡城管內　八月十一日羅南軍用地內兵營建築材料に放火せしものありて犯人は或は暴徒の所爲ならんと嚴重搜索せしも未だ端緒を得ず其他に於ては平穩なり

△端川管內　極めて平穩なりし其海岸を監視せしめつゝあるも疑はしきものゝ上陸荷揚げ等なし

△甲山管內　甲山附近は大討伐後稍々平穩に歸し一旦暴徒たりし者も家に歸り武器を隱し農民馬夫を裝ひ居る者少なからず依て之等の檢擧に努めつゝあり而して有力なる賊魁洪範道、車道善等の根據地たりしを以て村民にして暴徒に加りたるもの少からず然るに大討伐後前記の首魁等跡を晦まし殘徒は歸宅し身の置き處なき爲め歸順するもの往々あり尙各分遣所は之等の住民にして銃器を隱し將來危險の虞ある者を探索しつゝあり（未完）

俳句　白露集

閑庭や犬の欠伸に萩の散る　櫻水
西行の長袖霧にうたせ行く　湖東

露深し通天橋の水の音　可醉
馬を立てゝ見おろす岩霧の中　松花
淀通ふ船は聲のみ霧の中　可醉
名月や琵琶歌更けて橋の上　櫻水
淡路見ゆ須磨の旅寢やきり〳〵す　可醉
行く水に乘せて流るゝ砧かな　松花

五月閣

（廿四）　川合柳葉

「宗匠モウ寢んだか、些と起きて下れんかと、山川孤舟の家を訪ふものがある、まだ午後九時と云ふ時刻で、市中は雜踏の[illegible]に、擲て加へて俳句の宗匠の、客のある時は格別、客のない時は早くから寢むが例で、今宵も今の先床に就いた所である、山川は聞耳立てゝ、寸時返辭に躊躇して居ると、再び、

「山川モウ寢むだのか、眼が覺めてるなら些と開けて下れんか。」

何となく聞き覺のある聲のやうに思はるゝが、何に致せ、れ君と云ふ犯罪者を隱匿ふ身の、若やを慮りて、容易には答へぬ、やゝ寸時して、徐々表口まで出て、

「誰方です。」

と、漸く反問すれば、

「ヲヽまだ眼が覺めてたのか、私だ、私だ些と開けて下れ。」

云ふ聲で始めて其人が分つた如く、

「誰方かと思ひました、只今開けます。」

云ひつゝ表戸の錠を外してゴロ〳〵と戸を開けた。

「折角寢て居た所を氣の毒だつたね、是非話して置きたい事があるので、こんなに遲くやつて來たのだ。」

「いや、まだ早いのでございます、今九時を打つたばかりですが、私の方の寢みやうが早いものですから……實は眼は覺めて居りましたが、誰方かと云ふ事がどうも判然爲ないものですから、ツイ失禮を致しました、豈夫這麽時刻に貴方がお出でにならうなんとは夢にも思つて居ないものですから……サア取亂して居りますがどうぞお通り下さい。」

「では、此處でも話されんから些と御邪魔爲やうか。」

と、山川が案內に奧の一室に通つた、側は別人ならず御室雅致である。

「只今烟草盆を……。」

「イヤ急いで居るから烟草盆も何にも要らない、只必要な話だけ爲て置けば宜のだ。」

と、洋燈を横に對坐すれば、雅致は聲を潜めて、

「ハイ、相變らず獨身者ですから御安心下さい。」

何故かれ君の事は云はなかつた。

「いや、餘の事ぢやないが例の一件が至極好都合になつたぢや。」

「例の事と有仰るのは。」

「兄上を此家に連れて來る一件さ。」

「成程、へゑ、へゑ。」

「實は何の氣も付かず俳句の話を爲た所が兄も矢張り熱心な俳句黨で、那樣宗匠があるなら一日俳筵を開かうと言ひ出したからこりや好い都合だと、それでは宗匠の宅は斯々な所で、非常に閑靜な景色に富むだ宅だから、散歩ながら出掛る事に爲やう、宗匠には私から日を極めて通知するからと云つた所が、大層喜んで、それでは奈何か然う云ふ都合にして下れと云ふのだ、そこで何日が都合が宜いか、君へ相談したいと思つてそれで、這樣深更に來た理だ、君の方の都合は何日が宜いのか。」

「私の方の都合は何日でも宜しうございます、明日でも明後日でも……。」



▲無料紹介欄▼

人事部

年廿二才中等敎育有商業の經驗も有會社又は通勤商店員に雇はれたし　姓名在社

午後四時より九時迄の間にて韓語通譯に雇はれたし　氏名在社

十七男高小補習卒業夜間勉學し得る給仕小僧に雇れたし　氏名在社

年十七、商等小學校卒業官衙及銀行會社等へ雇はれたし確實保證人あり　花園町三　青木昌治（廿三）

當年貳十六才中學卒業後支那高等師範出身來有望なれば職別及び俸給を問はず市內に保證人あり面談苦しからず　姓名在社（廿四）

年廿二才中等敎育あり夜間八時頃より翌十二時頃迄被雇度市內に確實なる身元保證人あり　姓名在社（廿六）

●被雇度　旅館又は料理店の帳簿員を望む保證人あり　氏名在社（廿五）

●雇れ度　中等敎育を受け多年貿易業に從[illegible]商店へ雇れ度確實なる保證人を有す　姓名在社（廿七）

內地某開港地にて多年獨力商業經營の經驗あり當地知名の士に友交多し相當の人と共同事業を望む　氏名在社（廿八）

內地より商品を引くの便あり當地にて微なる人と協同事業を起したし但信用ある商店へ雇れてもよし　保證人有　姓名在社（廿九）

●傳授　謠謨製造法秘訣傳授したし　姓名在社（卅一）

韓語に精通し飜譯の經驗ある青年事業家の事務員又は語學教師として雇はれたし薄給不厭地方出張所可　氏名在社（三二）

●女記者　一名至急雇入たし希望者は履歷書携帶申込あれ　某日報社（三三）

一四五の女家事手傳へに至急雇ひたし　氏名在社（三六）

●旅館か料理屋の帳場に務度たし　姓名在社（三七）

●被雇度　年齡三十朝鮮語に至極熟練の者にて普通敎育ある者　氏名在社（四一）

●求職　年齡卅歲中等敎育を受たる男子會社の事務員及商店の記帳方に雇れたし但通勤にても宿家にても宜し　姓名在社（四二）

●人を探す　旭町一丁目に住する遠藤といへる人にて玄暎運と鐵山を出願せる方に至急面會したし　泥洞　玄ツル子（四〇）

●求職　体健の青年高等敎育あつて韓語に通ず相當の給料にて就職を望む但し確實なる保證人あり　姓名在社（三九）

●質素なる家庭に疊二三枚若しくはオンドル一間借り受け家族同等の待遇にて下宿したし　姓名在社（四三）

●被雇度　旅館料理店又は商店の帳場に雇はれ度し其他餘り勞力を要せぬ事何にても宜し保證人あり　姓名在社（四四）

物件部

貸家　間口二間半二階建長家上六疊二間下店八疊　疊二間臺所押入建具付月四十圓　明治町日韓印刷會社

貸家　二階建新築長屋上六疊下六疊二疊臺所押入疊建具付月二十三圓　明治町日韓印刷會社

貸家　二階建長屋上六疊下四疊半に臺所及押入あり疊建具付家賃一ヶ月十五圓　明治町日韓印刷會社

貸家　平家建長屋五疊半一間外事務所押入あり疊建具付家賃一ヶ月八圓　明治町日韓印刷會社

●二階貸間も應す　長谷川町曉翠佳絶所にて　同町一丁目　佐々木

●自轉車　中古格安にて至急賣却したし　氏名在社（三四）

貸家　曙町大韓日報社前家賃八圓と九圓の疊建具付貸家兩軒あり　南山町二　曾我（三五）

●借地　十坪餘の貸地を求む（但裏通にて可）明治町三丁目憲兵隊附近にて二　京城本町八丁目　吉田傳次（三八）

福澤先生を要す

建設者は破壊を怖る可らず、姑息的彌縫、偸安的粉飾は建設者の爲すべき事にあらず、眞の建設は先づ破壊よりせざる可らず、見よ新日本は如何にして建設されしかを、維新當初の状態を顧れば、總ての事鋭意猛斷、舊日本の破壊ならざるはなし、其破壊力の鋭利神速なる老舊保守派の人をして肝膽を寒からしめたり、渠等は終に亡國呼りをなし其極此等の破壊者を目して國賊となし之に天誅を加へん迚刺客を放ち、干戈を動かしたる者さへあり、之を以て見るも如何に舊慣陋俗の破壊が猛烈なりしかを知るに足るべし、此猛烈なる破壊こそ新日本建設の[illegible]是ぞ明治の巨人、福澤諭吉君なり。

先生は世人の知る如く極端なる舊日本破壊論者なりき、先生が極端論者たるは深く浸潤感染したる舊慣陋俗を打破するには決して尋常一樣の手段の能くすべからざるを看破したればなり、故に筆に口に力を極めて嘲笑熱罵些の假借する所なかりき、終には楠公の首殴も忠臣藏の犬死と迄に極言して一世を諷刺したるにあらずや、斯くして先生の大嘲笑、大諷刺、大熱罵は漸くに一世の注意を喚起するに至れり、其間世は先生を誤解し、夷狄と呼び逆賊と罵り迫害至らざるなかりしも、先生は平然として所信を叱露し、勵聲疾呼世に警告して怠らざりき之れ眞の建設は根本よりせざる可らずとの主張を貫徹したるなり、當時明治政府の花形役者たる、彼の築地の梁山伯、大隈、伊藤、井上等の急進政策は多く先生の鼓舞せる所に依るなり、如何に先生の急言喝破が世を動かしたるや知るべきのみ。

斯く我維新當時に顧て、韓半島の現狀を目擊すれば轉た寂寞の感に堪へず、帝國の保護統治に屬してより既に三年、其破壊革新力の遲々たる一として發目すべきものなし其間爲し得たるものは宮中の肅清と法令の制定位に過ぎず、宮中の肅清迚も未だ眞個に之を成遂げたりと云ふに非ずして僅に之を爲したるのみ、其餘の事は多くは彌縫折衷の姑息的改革に止るのみ、折衷や彌縫や妥協や修正やは決して建設にあらざるなり破壊の猛斷なくして衰亡瀕殘の邦家を革新せんとするは抑も謬りなり、韓半島の現勢は將さに衰殘の極に達せるなり、之を救ふの道は唯猛斷あるのみ、此時に當りて余輩が福澤先生を懐ふは決して理なきに非ざるなり今は全く福澤先生を要するの時代なり要する時代なり、觀て邦人の植民的經營を見れば、障害多くして經營容易ならず、實際滿韓に於ける經營の實權を把握しながら之を充分に進張する能はず、空しく膨脹的國民をして髀肉の歎に泣かしむるに非ずや此際當局に對して、先生の大嘲罵、大警告は最も必要に非ずや。要するに微温湯的の折衷策や、姑息的彌縫の如き曖昧なる政略は禁物なり、根本的革新に非ざれば決して韓半島の鞏固なる建設はなし能はざるなり、之れ余輩が福澤先生を要すと言ふ所以なり。

對星樓茶話

△明年は加藤清正公三百年祭に相當り熊本城下に於て其祭典を擧行するため同縣は申す迄も無く、信徒側よりして、又韓國問題よりして、該祭典の盛大を期待するもの、全日本國民の均しく期待する處也。

△[illegible]して公の高尚なる[illegible]顯はしたる也、日本武士の典型にして、又亂世に於ける求道[illegible]熊本縣下肥後人士の如きは、公の遺澤を受けつゝある[illegible]は肥後人士の美風也

△文祿の役中に於て公が會寧に於て韓王子[illegible]禮遇太厚く、二[illegible]を以てせり、而かも[illegible]力を傾け、豐大閤[illegible]武威をして甚しき[illegible]たるは公の力に賴[illegible]多智口舌國の代表[illegible]髮の間だも乘ずる[illegible]正の嚴正なるを想[illegible]

△公の一世に過ぎし[illegible]精華を極めたりし[illegible]の歸途に於て端な[illegible]、孤忠亦々として[illegible]一事是也。

△吾人は日露戰役の今日に於て、而かも公[illegible]山河に對[illegible]ると云ふことは極[illegible]遇さゝるを得ず、帝[illegible]に對して尙且つ今[illegible]時の最大武將を祭る[illegible]堪へず。

△[illegible]國民を擧げて此祭[illegible]州崇拜の人物に非[illegible]らず、吾人は在韓[illegible]す多大の感謝を表[illegible]べし

東京電報

[illegible]將さに危からんと[illegible]運に於て得失あり。[illegible]論重ねて勃興せり

稻作豫想と天候

本年の稻作豫想は五千三百萬石と計上されたるも[illegible]二百十日後比較的冷氣[illegible]るべく五千萬石の[illegible]べし

▲樞密院會議

今日樞密院會議を開き先日委員附托となりたる海軍懲罰令に就き委員より調査結果を報告し可決の上散會せり

▲拓殖特別委員會

拓殖會社特別委員會は今日定款、株募集法等に就き協議し終りて首相邸の晩餐會に趣きたり

▲拓殖重役の持株

拓殖會社特別委員會にて重役の持株は一千株とし株式募集は拾一月一日より十五日迄とするに決せりと(以上廿四日發)

▲統監の歸任期

伊藤統監は十月中旬頃一旦歸任し年末若くは來年一月頃再び入京の由

加藤大使授爵

加藤駐英大使は日英同盟の功により不日子爵を授けらるべし

▲統監の演說

伊藤統監は昨夜桂首相と東洋拓殖會社日韓創立委員招待會に臨み左の演說を試みたり

會社の設立は韓國の富源を開發し日韓の利益を增收するものなり從つて會社の盛衰は日韓兩國の關係に影響を及ぼすものなるを以て日韓兩國民は銳意協同して其の成功を期せざるべからず而して韓人中には動もすれば日本の對韓政策を妨害するものあるが幸ひ今回韓國より創立委員として來京せる方々は能く日本人と胸襟を開きて之が事を圖り万一の誤解を一掃せられたし云々

▲韓人株主の心得

東洋拓殖會社の株主たらんとする韓人は左の條項に適合する土地を供提するものとす

一、出資すべき土地は出資者が適法に所有する現收益ある田畑にして抵當券又は地上權を負擔せざる事

一、出資の土地は少なくとも一口五百町歩以上にして五町以內に纏りたるものたる事

▲會社と土地評價

韓人が東洋拓殖會社に出資すべき土地の評價は最近五ヶ年間の平均純益一ヶ年分の二十倍とすとの原案なるも韓國政府の出資する驛屯土との評價と同じく果して十七倍半となすや否や未だ決定せず(以上廿五日發)

雜報

●帝室博物館長の謁見

帝室博物館長保野琢同美術部長今泉雄作二氏は敬意を表する爲め本日參內謁見を仰せ付らるゝ由

●副統監の晩餐會

曾禰副統監は過般慶運宮に於て太皇帝の御前揮毫に列席し讃賛に御玉章を賜りしは韓國慣例に據る祝宴として本日午後六時より韓國皇族各大臣等重なる人三十七名を招待し統監官邸にて晩餐會を催さるゝ由

●韓國の治水事業

韓國の河川は幾百年來自然の儘に放任され平常は殆ど水を見ることあらざるも、降雨あれば忽ち氾濫して附近の田野、道路を洗ひ去り本年の如きは比較的水害尠なかりしに拘はらず鐵道のみにても尙ほ七八十萬圓の損害を被れり韓國に治水事業を興すに付ては約三千餘萬圓を要す可きも、之を十年計畫とせば年額三百万圓にて足るべく、其の結果地味風土我國と大差なき莫大の荒野變じて良田と爲り尙ほ之に伴ひて農事の改良を行ふ時は、現在一反歩に付米七八斗の收穫は一石四五斗に上る可く、加ふるに全國の地味綿の栽培に適するを以て、耕作發達の上は年々一億圓の產額を獲ると左まで困難ならざるべしと云ふ

●農民の移植期

拓殖會社設立は十一月中旬の豫定にて創[illegible]本社を京城に置き東京に支社を設置すべき筈本邦農民の移植は最重要事件なるを以て成るべく本年中に其の準備を完成し明年早々移送を始め是非とも春季よりの各種耕耘に着手せしめん手筈なりと

●第三回梁起鐸公判(續)

●證人マーテン訊問●

證人の陳述は不得要領なりしも裁判長は此れを追窮せず他の訊問に移れり

(長)ベッセルは被告人に對し一萬圓を證人に貸與したる旨を語りたりと云ふ其の事は知らざるか

(マ)自分は被告人と關係なきを以て其の事は知らず

(長)證人は其の事に關しベッセルより聞きたる事無きか

(マ)或はベッセルより一万圓借りたる時の談し即ち初めの五千圓宛二度にて一万圓借りたる時の談しに非ざるか

(長)報償金を借りたる事は當時證人とベッセルの間の秘密として他に何人にも發表せざりしに非ざるか

(マ)其の事は更に知らず當時此の金が梁起鐸に關係あるべしとは知らず彼は每日申報の發行人なりと信じ居れり

(長)ベッセルが證人の家に在りし時尹なる者來りて報償金に關しベッセルに談判したる事なきか

(マ)ベッセルは自分の家を出でしより既に二年なれば其事は知らず

(長)證人の家にてベッセルが尹なる者と面會し談判したる事なきか

(マ)ホテルは公開なれば何人の來りしやは承知せず

以上を以て裁判長の訊問は終了し檢事に訊問すべき事無きかを問ふ伊藤檢事は口を開けり

(檢)證人の記臆する所によればベッセルに利子として支拂たる金額は何程なりや

(マ)三百圓以上四百圓以下なりと記臆す

(檢)利子の領收證なきか

(マ)無し

(檢)帳簿に記載しありや

(マ)有らんと信ずれども今明に記臆せず

(檢)ベッセルの證言には利子は受取らずと言へり然るに今證人の陳述する所と異なれる如し間違なきか

(マ)近時九百圓月賦となして以來は未だ利息金を支拂はず然れども初め十八ヶ月期限の時其の利息金を支拂たるは間違無し

以上を以てマーテンの訊問は終り彼は直ちに退廳す裁判長は證人陳述の大要をば通譯をして辯護人(韓人にして日語を解せず)に說明せしめ且つ詳細は記錄によりて閲讀すべしと告げ檢事に對し證據又は證人に關して意見無きやを尋ねしに檢事は公判は此の儘引續き進行するや否やを問ひ其然らざるを答ふや然らば其の意見は次回に陳述すべしと應へ裁判長は本日の公判閉廷を命す(終り)

●第四回梁起鐸公判

國債報償金詐僞取財の被告人梁起鐸の第四回公判は昨日午前十時より京城控訴院第一號法庭に開かる係官は前回と同じく辯護人として英人マーナム辯護士李容相玉東奎の三氏出席し內外新聞記者英國總領事館副領事同領事官書記生ワイト夫人其の他數十名の傍聽者あり裁判長は先づ被告人梁起鐸を呼び前回[illegible]判に於て決定したる證人調べの中コールブランは出廷を拒みたるを以て更に米國總領事に交涉し同領事の證明したるコールブランの供述書を徵したりとて此れを說示せり

(長)コールブランの供述書によれば一月十六日金礦株を二萬五千圓にて賣買する事を契約し六月三日取引をなせり、ベッセル及び總合所より報償金をコールブランボストウイック銀行に預けたり日時及び其の金額に關しては答を得ず、現在預金は一萬二千五百八十餘圓なり此れに關して被告は陳述する事無きか

(梁)別に云ふべきなし只金礦株を買ひたるは被告の關知せざる所又仁川に預金したるは利殖に宜しき故たるの外知る所なし

(長)檢事は證據に對し意見無きか

(檢)無し

(長)被告及び辯護人は陳述する事無きか但し今は事實に關して陳述すべき場合にして辯論すべき時に非ず誤る事勿れ

(梁)事實及び證人の證言に關し申述べたし前回の公判に於て證人ベッセルの證言したる所と被告の申立は符合し檢事は被告が國債報償金を詐取したりと公訴せられたるも國債報償金の處分は被告の關知せざる所にして被告は此れを詐取したる事なし(未完)

●梁起鐸の裁判言渡日

梁起鐸の第四回公判は別項の如く昨日午前十時より京城地方裁判所第一號法庭に於て同十一時二十分結審したるを以て來る二十九日之れが言渡をなすと云ふ

●運輸同盟協議會

韓國鐵道運送業者の發起にて運輸同盟會組織のとは既報の如くなるが昨日午後一時より仁川八坂樓に於て韓國運送業代表者相會し同盟組織の件に關し協議したるが日本全國運送業同盟聯合會囑托松原榮氏も列席したり尙は同會は來る十月一日設立總會を開く筈なりと云ふ

●帝國實業會の目的

閔元植を中堅とせる同會の目的とする處を聞くに(一)國民の實業を發達し政事を避くる事(二)本會に仲介者を設け東洋拓殖會社と交涉し國民の便宜を謀り併せて測量製圖の業務を採る事(三)本會に東洋商品株式會社を設け會員中の無職者に就職の便宜を謀る事業なるが就中第二項東洋拓殖會社と交涉し云々に重きを置けるが如きも果して同會が期待せる如くなるや否疑問なりと云ふべし而して會員には會票及商務憑票なるものを付與し每年二十錢の會費を徵收する筈なりと

●鐵道青年會事業狀況

▲韓國鐵道青年會 日本基督敎青年會同盟本部が統監府鐵道管理局に屬する鐵道從事員及び其家族に對し德性、智識、身体、社交の狀態を改善するの目的を以て本年三月以來龍山に假會館を設立し大屋長官始め主要の地位にある人々の贊助の下に漸次事業を擴張し來り殊に近時兒童日曜學校の如きは著るしく生徒の增加を來し每回百余名に達し其父兄の如き敎育上多大の便益を得つゝある由なり

▲鐵道夜學會 鐵道青年會は龍山出張所長[illegible]の盡力により經營されつゝある鐵道夜學會の敎育方面に力を注ぎ普通科專修科を設け普通科に在りては給仕職工傭人等に普通敎育と共に德性の涵養に力め專修科にありては英韓語の二科を置き部內篤學の人々に實用的語學を敎授し近き將來に於て更に簿記科をも增設する計畫にて每夜八十名內外の出席生徒ある趣

▲青年會內の諸集會 家族慰籍の方法として淸新なる各種の娛樂的集會より宗敎的講話、敎育演說、學術講演會等を每週會館內に開催し去る十九日に於ける學術講演會の如きは實に近來になき盛會にて總務部法學士遠藤剛太郎氏「米國の話」を調査課長法學士安藤又三郎氏は「鐵道の法律上に於ける地位」を講話せられ當夜は二百餘名の聽衆にて滿場立錐の地なき有樣なりしと

▲鐵道沿線の慰問事業 青年會は韓國に於て殖民的地盤を堅固にし日韓人に對し啓發の目的を以て鐵道沿線の僻地に散在せる鐵道從事員及び其家族並に地方居留民をも訪問慰籍し幻燈、活動寫眞蓄音機等を以て心目の怡樂を謀り又修養の講話をなし或は有益なる小冊子を無代價にて配與し多大の效果を收めつゝある由因に鐵道青年會は米國に於ける施設に倣ひ今後韓國樞要の地に其事業を擴張し將來に於ては南滿鐵道にも延長し帝國新發展地に於ける殖民地的有用機關たらん事を期する趣なり

●大久保少將出發

去る二十三日入京されたる參謀本部陸地測量部長陸軍少將大久保德明氏は靑木少佐を隨へ一昨日北韓へ向け出發されたり

●村田明石兩將軍

北韓地方視察中の村田少將及び憲兵隊長明石少將の一行は昨日午後一時歸任されたり

公人私人

▲田中讓(東京石川島造船所技師) 下仁中の所一昨日入京巴城館

▲木原方吉(佐賀縣水產技師) 下仁中の所一昨日入京原金旅館

▲土屋益三郎(平壤農工銀行支配人) 一昨日來京山本旅館

▲石田誠(漢城病院耳鼻咽喉科長) 一昨日着任同上

▲石井光雄(慶尙農工銀行支配人) 一昨日入京同上

▲佐藤龜久次(光州農銀支配人) 一昨日入京九州旅館

▲太田黑宜三(同行技師) 同上

▲金澤平次郎(東亞煙草會社重役) 一昨日入京天眞樓

▲樋口正美(東京大林區署長) 一昨日安東縣へ向け出發

▲渡邊勉(第六師團步兵第十三聯隊附中尉) 一昨日開城へ向け出發

●近事片々

▲京城日報の相風洞辭に桂內閣になつて韓國經營の事が捗々敷行かないと愚痴くる

▲亦曰く桂內閣は人氣取に汲々として重要なる事業を等閑に付する樣ではと困るゝ

▲[illegible]

▲斷行すべき時斷せすとは何だか統監公いと取返しが附かなくなるとは御尤千萬也

▲荻田書記官が玉の如き一男子を擧げ曾禰子に命名を請へるに例の俗謠を書與らる

▲保さんの俗謠御當人天狗だろうが隨分上手からぬ至くヌタだが何だか解し兼る也

▲兎角十八番に國扱けた者はない寒臥公の漢詩西湖子の俗謠も或は此中の者ならん

▲然るに遠慮なくヌタくる處は矢張り度胸が良い西湖子の漢詩は却て手に入れた者也

▲英雄とか豪傑とかを並べる春畝公の詩は隨分臭持のならぬ者多し而も夫で大天狗

▲韓國治水工事費の概算は約三千万圓を要すと五年計畫とすれば一ヶ年六百萬圓也

▲斯る費用は直に生きて還るものなれば外債に因るとも速に着手せざる可らざる也

▲治水工事に依りて荒蕪地の開拓さるゝものは極て莫大年々一億圓の增收あらんと

▲何事を差措いても治水工事は速に着手せざる可らず是れ韓國一番の急務問題なり

▲觀察使を配置するの案は決定せられたりと副使は日本人を以て之に充つべしと

▲副使なりともなきには優るされど次官の中央に於ける如く鬼角思ふ樣になるまじ

▲何故思ひ切て觀察使を日本人になさゞるや殊更に複雜なる制度になすの必要なし

▲既に決定したりとせば今更止むを得じ唯人物選擇を誤らず選材を拔擢するを要す

▲雲觀宮の宴に宋內相と閔宮相とが色を變へ口角泡を飛ばして爭へりとは事實にや

▲宋氏歷史を引用して滔々辯じて閔氏を屛息せしめたりとの說もあり何等の爭にや

▲野津元帥の病氣危篤の報あり嘆きには井上侯の危殆本年は兎角元老組に祟る年乎

▲東京市長の撰任問題は久しく暗闇を續けしが漸く纏りて尾崎氏再選せられたりと

▲人は種々に言難すも尾崎氏ならば比較的好箇の市長也テオドル夫人一先づ安心乎

▲併し撰任に就ては幾多忌はしき暗鬪[illegible]

短篇小說

舊友（四）

青楓 作

コ、南山町に、前方には統監府の高臺を眺め、後方には佛蘭西教會の聖堂を仰いで小瀟洒した表格子戸の家屋がある、入口に張付けた小やかなる名刺には、東京府士族吉葉藤枝としてある。

既に闇き夜の帷は拂はれて、朝日は高くホープの光を與へて居る、庭の草葉の玉露はキラ／＼と閃いて、冷き風のまに／＼ハラ／＼と落つる、實にも澄み渡つた朝景色である。

この朝、吉葉が宅の、小庭の朝鮮菊は、黄や紫や白や紅や、花は今を盛に咲き[illegible]の花園の眞中に立つて、紅の一輪に接吻を與へて居るのは、主人の藤枝である、身には紺絣の單衣に、同じ羽織を重ね、オリーブ色の鼻緒の雪駄を穿いて風に吹かれて居る、歳はもう廿歳を三つ四つは越したであらう、大きな兩髮に、後毛一つない艶々した顔色であるが、濃い眉と眉との間に、憂愁の波の泛ふて居るは或はヒステリーとか云ふ病の爲ではあるまいか。

藤枝が、二度目の花にキッスをせんとした時、垣根越に隣の春ちやんの聲がした

「春ちやん一寸來て御覧なさい、まア大きな花輪よ」

「ドレ叔母さん」

表から、駆け寄つて、藤枝の傍に行んだ、

「コレ、眞實に大きいわね」

「奇麗でせう、これはね去年内地の御友達から、送つて頂いたのよ、一体が性質の良い種なんでせうよ」

「そうじやないわ、矢張し叔母さんの丹精の結果だわ」

「オホヽヽ、春ちやんはませたことを被仰るのね」

「叔母さん、妾に一つ頂戴な、妾机の上に飾つて置き度いわ」

「左樣、妾他方の御方なら上げないんですけども春ちやんの御願ですから、妾喜んで上げるのよ、待つて被居いな」

藤枝は、纖手を伸ばして、幹の露を拂ひ、五六本手折つて、春ちやんに渡すのである。

「叔母さん有がたうよ、御父樣は如何程に喜ぶか知れないわ、左樣なら」

喜々として、慌たゞしく掛け行く後ろから

「春ちやん、又後で被入いな」

「ハーイ」もう垣根の外である。

「子供は、何うしてあんなに無邪氣なんでせう」

獨言し乍ら、聽て座敷に上つた、

「吉や、今日ね又何誰か被入るかも知れないから、克く御掃除をしてれきなさいよ」

「ハイ、奥さん、あの村田さんの奥樣は、如何なすつたんでせう、此頃は些とも御目にかゝりませんわね」

「左樣ね、時候が不順から、又加減でも惡いのぢやないかしら、一体が御弱い方だからね、今日妾午後から訪問しませうよ」

「そうなさいませ、奥さんはどんなに御喜びなさるか解りませんわ」

「左樣ねエ」

藤枝は、不讀了の雜誌心の花を再び繙くのであつた。

ハヤもう十時である、高い教會堂の天頂から、撞き出す祈禱の鐘は、覺めよ汝汚れたる者よ、來れ汝罪ある者よ、主エスキリストは汝等の救ひの主なるぞよと響き渡る

●暴風雨標設置

從來仁川觀測所構內及月尾島に掲揚したる[illegible]と云ふことが知れる丈で遠方に旅行するとか航海するとか云ふ人は途中に如何なる低氣壓があるかを知らずして出發し爲に不慮の難に遇ふことも少からざるを以て近來日本内地の主なる港にては暴風雨標なるものを設けて東亞の海上に暴風雨があるときは之を掲げて遠方に行く人々に注意を與へる仕組と成り居れり韓國にても先づ月尾島に之を設けて來十月一日より實施するごとなれり夫故同日以降は例令仁川附近は警戒されずとも東亞の海上に暴風雨の現はれたるときは月尾島の警報信號柱に種々の信號標(本年八月二十五日韓國官報參照)を掲げて暴風雨の模樣を知らする由なれば世人は之に注意して可なり其信號法は上架の一端にある一個が中心を觀測したる時刻下架の一端にある上二個が中心の位置下一個が進行方向、他の一端にある上一個が進行の遲速下の一個が中心の氣壓を示すものとす而して此暴風雨標は日出より日沒までに大凡二時間つゝ二回揚げる由にて若し仁川附近をも警戒する場合には從來の警報信號標を上架時刻を示す信號標の上に重掲し警戒中は晝夜とも卸さゞるものなりと云ふ其信號の種類は觀測所、理事廳、税關等に就て聞くを得べく又其内には税關波止場附近に之が說明書を掲示さるゝ由なり

●運動會順序

明二十七日東大門内訓練院に於て催すべき京城居留民團立各學校及び幼稚園聯合大運動會の順序は如左

開會式、徒歩競爭、尋常三男三回、ホール送り競爭同一女一回、徒歩競爭同一男二回、旗取競爭一女三回、變化顏々同一男一回、花ぱたけ高等女學校附屬幼稚園一回、寶拾ひ尋常一女四回、龍の子追ひ同二男二回、騎馬競走同三男二回、海賊遊び同一男一回、盲人手引競走同二女三回、風船送り同三四女一回、遊戲庚子幼稚園一回、遊戲同一回、球釣競爭尋常三女二回、徒歩競爭同四男三回、笊何遊び同二女二回、花散し競爭同一男女一回、猿廻し競爭同二男二回、体操高等女學校、綱引尋常三四男一回、輪ぬけ競爭尋一男四回、蝶追ひ同二女一回、源平球轉し同一女二回、徒歩競爭同二男二回、●晝食、騎馬旗送り尋常五男一回、潮干狩同女三回、二人袖被競走同五女三回、二人三脚、同四男二回、スプーンレース高一二女一回、十字旗送り尋常七女一回、スプーンレース同四女二回、龍の親玉同五男一回、徒歩競走同六男三回、雀同三女一回、川中島の戰高一二男一回、燕の子尋常四女一回、十字毬送り高等學校一回、障碍物ツートボール高一二男一回、紅葉狩三人四脚尋六男二回、旗換へ競爭同四女二回、尋常五女二回、花環競爭高一二女一回、蛇行競爭尋常三男一回、寶袋高一二女二回、かささぎ尋常五女一回、徒歩競走同五男三回、蛇の趣遊び同四男一回、ジャーマン、クットリール高等女學校一回、背合尋常五男二回、歲の暮同六女二回、徒歩競走高一二男三回、騎兵格鬪尋常六男一回、短冊競爭尋常五女二回、陸軍傳令競爭同六男一回、倭城臺高一二女一回、障碍物競爭高一二男二回、職員競爭、來賓競爭、聯合体操各學校生徒一同、閉會式

●塵芥處分の注意

南部警察署に於ては塵芥其他の處分に就き一昨日告示を發せ[illegible]地内より拔き採りたる雜草類は取り蒐め宅地内空地に埋むること(三)塵芥は搬出に便なる爲め宅地外塵芥箱に投棄すること以上は日韓人に適用され早刻實行に着手すべし

●た役人の淸濁併呑

東大和町通信管理局の官舍に杉松某とかいふ銀筋の役人ありけりサテ此の役人渡韓當時はいとも着實に神妙に身を持しけるが本年七月頃某の妻女といふがブラ／＼病にかゝり醫師の治療も藥の服用も更に其の効驗なくのみならず病はます／＼重くなり行き時々は極手古な眞似を爲すにぞ男は何どなく薄氣味惡くあり コリヤ一番今の中に内地へ追い戻し故郷でゆるりと治療を爲すに如かじと妻にも其の由を含ませ頓て内地を歸したりしがサテ男は斯うなると夜毎の闇が何うやらう淋しく晩酌の飛んの烟さましをコップに注ひでグッと一息に飲み干し醉つた勢で蒲團を被つて眠れども幵はホンの束の間又候孤衾冷やかに眼はさへて徒らに空想に耽るのみなりしが男はイッソ斯うしても下司心の當坐の慰みと許りに一間を隔てゝ寢て居る下女の菜を挑み殆んど手ごめの濡事に思ひの丈を晴せしことも屢々ありしがサー斯うなると昨日の下女は今日の下女にあらずスッカリ主人の弱點を握り居る所から今はするで奥樣同樣自分の本職は打ち忘れて毎日々々長火鉢の前にばかり坐りまるで夫婦とも紛らふ程なりしが併し惡い事は出來ぬもの其の中國へ歸りし妻女は病も追々全快に赴きたるより ツヒ此の間突然家に歸り來りしが何はサテ何うやら斯う夫と下女との素振が怪しく多分は自分が留守の間に出來合つたものに相違なしと早速感付き漲る許りの胸の口惜さをヂッと耐へて油斷なく樣子を探り居りしが所破裂の機會は爰に端なくも來り或る時妻女が用先きより夜の十二時頃歸宅し頓て寢間へ這入らんとせしに這はソモ如何に件の女中奴があらう事かあるまい事か自分の床に入り而も自分の枕迄して悠々と暮ね居るにぞ妻女は呆れ果てゝ物をも言へ得ず暫時は我をも忘れて茫然と佇み居りしが忽ち怒りの火の手は一時に顏に現はれ此の女下女の分際として不埒にも自分の主人を欺取りし奥樣の向ふを張らんとは飽迄も憎い女と突然下女の襟髮を引き摑み其のまゝ表へ突き出したるが後から歸りし男は豫ての自分の不始末がスッカリ妻女に判つて了つたを恥ち入り妻女に向つて頓首百拜平蜘のやうになりて平に謝罪せしとか

●雪子の此頃

秋ごしなれば萬物皆ならう寂びしさに況して他郷の空に憂き勤めする身の病の床に臥しては一層其憂の増すも道理なり楢ても其後雪子の病氣は好やんの菊野が手厚き介抱に一時危かりし命を取止め病後の摸樣も思ひの外に好く今は全く全快して稼業に差支へなき迄になりたれば雪子は菊野の介抱を深く恩に着て今は總以外に菊野を慕ふ心の彌増すに至り豫て肌身離さぬ菊野の寫眞を出しては嬉しさうに眺め何故に此寫眞が物言はぬと恨みの數々を並べることも日に何度といふ數を知らずさか斯れば菊野も又た雪子を惡からず思ひ互に深くなるばかりにて菊野は之れが爲め無理算段して通ひ居れども何ふ言をても自分も主人を持つ勤めの身とて思ふ如に金も繼かず雪子の手前打明けて身分を語られず今は此世知辛き世に生き長らへて生恥を掻がんよりは一層死んで黄泉で樂んだが增しならめと覺悟せし事幾度なりしも凡夫の哀しさ雪子に未練の殘るは固より故郷に在る兩親や兄弟に心引かれてそれも出來ずと菊野が獨り打悄れ居るを雪子も同じ思ひにて深け行く秋の空を打眺めては深き思ひに沈み居れりとか

●藥代三十錢 永樂町居住崔昌範(三十)は昨日午前十時三十分旭町二丁目にて本町一丁目雜貨商辻本嘉三郎方雇人大阪府平民辻市太郎(十八)の荷車に觸れ手腕に擦過傷を受けたる爲め南部警察署に訴へ出たるに双方取調の末藥代三十錢を辻より辨償することゝなり事濟みたり

●宿なし拘留 山口縣阿武郡萩町六百十一番地平民無職川口五郎(二十九)は一定の住所なき浮浪人として一昨日南部警察署にて拘留一日に處せらる

●之れも宿なし 大分縣大分町河野三郎(三十)は去る六月當理事廳に於て一定の職を求むべく命せられたる者なるが其後相變らず一定の職業なく徘徊し居りたる處を一昨日南部署の赤松刑事の手に押へられ理事廳裁判へ送らる

●腸窒扶斯 旭町一丁目百一番戸森政吉(三十)壽町二丁目五十七番戸鎌田方雇村アサ(十七)永樂町三丁目田中庄平方田中ヒサの三名は何れも一昨日腸窒扶斯に罹り大韓醫院に送らる

●野狐四疋 秋風に靡く尾花が下に住みてコンと鳴く野狐ならで何時も春なる新町皆春樓に世の野呂馬共を誑かし其生血を吸ひ取つて現れんと東京府平民和田トメ(二十)同荻原マツ(二十)が式部同八橋カ子(十九)が小栗と名乘り昨晩より長い顔を陳列することゝなりたり

●龍山本願寺の說教 今二十六日午後七時三十分より龍山本願寺に於て伊藤開教使の說教ある由

●壽座の替り狂言 木村劇本晚の藝題は左の如し

(一)園山家奥庭(二)同家伯爵居間(三)園山家裏門外(四)園山家座敷(五)赤阪見附(六)大工芳五郎宅(七)品川勢州樓座敷(八)高輪二本榎濟廳託住居(九)園山大廣間(十)同家玄關(十一)芳五郎宅(十二)園山家大廣間(十三)園山家奥庭

芳五郎女房れ幸(野村)丸髷れ蝶(花井)小間使れ雪(高尾)園山濟磨(内藤)家令杉下(松村)園山國信(榎本)大工芳五郎(寺田)家扶桐田(佐海)家扶森山貫一、松平夫人實はれ蝶れ高、惡徒横藏(木村)

尙ほ明晚は菊池幽芳原作『乳姉妹』を演ずる由

●天氣豫報(自廿五日午後六時 至廿六日午後六時)

西の風晴

廿五日午前六時各地氣象概況 高氣壓黄海を蔽ひ全國一般に風力弱く天氣晴朗なり

廣告

第二回廣告

京城居留民團立各學校幼稚園聯合秋季運動會へ左記ノ通金品寄附アリタリ

明治四十一年九月二十五日

京城居留民團民長 熊谷賴太郎

金五圓	淸水繁太郎
金二圓	石井周平
金五圓	國分琴
金十圓	第五十八銀行
金五圓	桐原彥吉
金十圓	中村再造
金五圓	梶原末太郎
金一圓	小池英勝
金一圓	桑原太平
金二圓	中村政次郎
金五圓	森村太郎
金一圓	野中健造
金五圓	古河松之助
金二圓	勢一助市
手帳壹百冊	河村長三郎
手帳五十冊	村上天與
ノートブック貳百冊	白石殷雄
稻方帳叁百冊	日韓書房
金壹百圓	總理大臣李完用閣下
金五圓	木村雄次

以上

講談

西山茶話 (六)

衣川

桃川燕光

れ供の元起はモウ御老體ではあるし、對手は既に角一流の指南番、萬一のことがあつてはならんと心配をして見て居ると、身體鵜の毛で突いたほどの逢もない、是なれば大丈夫だと安心をした、遉はりなるかな當時日本一といはれた和田平助といふ名人が仕込んだ腕前、第一源右衛門は仙臺の家中伊達伯爵、其の又家來、西山公は天下の副將軍水戶の三位中納言と仰せられた方、身分が違ふ、御威光に打たれたものか源右衛門中々打込めない、何時まで斯うしてあるべきかと、源右衛門一層踏込んでヤッと打込むのを西山公心得たりと受流し七八合打合せて吐く息引く息、源右衛門が一息吐く途端にエイッと一聲、西山公が突を入れた。充分に氣合が入つて居たものと見ゑ、ヒョロ〳〵と蹌踉てドーンと打倒れるとウーンと氣絶をした。是の体を見ると西山公、持つた竹刀をガラリと投げ出し 西「元起續けッ」と表へ飛出す、元起も跡へ續いて飛出した驚いたのは弟子達、ソレといふので源右衛門を抱き起し ○「ソレ水だ〳〵」と小火でも始まつたやうな騷ぎ △「早く水を吹き掛けろ」 ○「ブーッ……」 △「アッ仕様がねへな、乃公の顔ちやあねへ先生だ……先生確かりなさい、先生……」漸やうのことで源右衛門己れに返つた 源「門人衆、那の老人はどうした」 ○「貴所が仆れるのを見ると表へ飛出しました」 源「アヽさうか、各々の前だが劍術の稽古は大概にさつしやい、餘り上手になつては往かんて」 ○「ヘヱー、何故で」 源「魔がさすと往かん。今れ前方を打つた若い坊さん、那れは羽黑山の小天狗私が打合つたのは羽黑の大天狗、全たく魔がさしたので、どうも天狗は恐るべきものだな」 △「ヱーさうでございます、オイ杉浦見たかへ」 杉「何を」 △「那の老人がヤッといつた時に脇の下から五尺ばかりの羽が見ゑた」 疏匆しい奴があるもので、竹刀を羽と間違へて居る ○「ウム、さういへば表へ飛出す時に、バタ〳〵と羽歙の音がした……」嘘ばかりいつて居る △「先生、何にせい當郞が名人だから天狗が來たので、誠に名譽なことで。お目出度うございます。れ赤飯でも炊てれ祝、なすつたら如何で」 △「イヤ大きに尤もだ」と早速赤飯を炳いて諸方へ配る。滿らない散財をした…… 西「元起早く來い」 元「モウ誰も追駈けては參りません。併し斯樣なことは以來御無用に遊ばすやう、倘し間違などが起つてはなりませんから」 西「アヽ宜い〳〵。だが元起、源右衛門と申す奴は口の惡い奴ちや、予の事を老耄〳〵と申して居る。さて機嫌になつても老耄などは餘り嬉しい事ではないなア」

●新聞料 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金參十錢▲三ヶ月…▲六ヶ月前金貳圓▲壹ヶ年…
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回四十錢 ▲…廣告五號活字十九字詰一行金五十錢
發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬太
發行所 京城新聞社 京城…電話六六三番